

新学習指導要領の趣旨を生かした授業づくり

小学校道徳

1 改訂の趣旨

- 子どもたちの実態や指導上の課題を踏まえ、学校や学年の段階ごとに道徳教育で取り組むべき指導の重点や特色を明確にし、生きる上で基盤となる道徳的価値観の形成を図る指導を徹底し、自己の生き方についての指導を充実する。
- 学校全体で取り組む道徳教育の実質的な充実を図る視点から、道徳教育推進教師を中心とした道徳教育の推進体制の充実を図る。
- 子どもたちの道徳性の育成に資する体験活動を一層推進するとともに、学校と家庭や地域社会が共に取り組む体制や実践活動の充実を図る。

2 改訂の要点

(1) 目標（道徳の時間における目標の改善）

道徳の時間においては、以上の道徳教育の目標に基づき、各教科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動における道徳教育と密接な関連を図りながら、計画的、発展的な指導によってこれを補充、深化、統合し、道徳的価値の自覚及び自己の生き方についての考えを深め、道徳的実践力を育成するものとする。

「道徳的価値の自覚を深め」としていたところに「自己の生き方についての考え」を加え、道徳の時間の特質である道徳的価値の自覚を一層促し、それを基盤としながら、児童が自己の生き方に結び付けることを重視している。

(2) 内容

内容項目を示す冒頭に「道徳の時間を要^{かなめ}として学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の内容は、次のとおりとする。」を加えている。

内容項目については、他の学年段階や中学校とのつながりや発展性を分かりやすくするための改善が図られている。また、4-(2)に「勤労」（第1学年及び第2学年）、1-(5)に「個性伸長」（第3学年及び第4学年）についての項目を新しく設けている。

(3) 指導計画の作成

道徳教育推進教師を中心に、道徳教育の全体計画と道徳の時間の年間指導計画を作成することとしている。

ア 道徳教育の全体計画

道徳の内容との関連を踏まえた各教科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動における指導の内容及び時期並びに家庭や地域社会との連携の方法を示す必要がある。

イ 道徳の時間の年間指導計画の作成

示されている各学年段階ごとの内容項目は、相当する各学年においてすべて取り上げるとともに、児童の発達の段階や特性等を踏まえ、指導内容の重点化を図る。

(4) 道徳の時間の指導

児童が感動を覚えるような魅力的な教材の開発や活用を促すこと、書いたり話し合ったりするなど表現する機会を充実させることなどが具体的に示されている。

3 新学習指導要領全面実施に向けた授業づくり

(1) 魅力的な教材を開発・活用した授業づくり

教材を開発する際には、児童が道徳的価値の自覚を深めるとともに、自己の生き方についての考えを一層深めるために、児童の感性に訴え、感動を覚えさせることができる等の要件を踏まえる必要がある。また、名作、詩歌などの読み物、実話や漫画など、多彩な形式の教材に着目し、教材発掘に努めることが大切である。

(2) 書く、話し合うなどの表現する機会を充実させた授業づくり

話し合いを深めるためには、児童それぞれに自分の考えを持たせ、効果的に表現させるなどの工夫が必要である。話し合いとともに、書くことも重要である。書くことにより日ごろは忘れていた体験や自分自身のことを思い出すことができる。この意義を意識した活動を取り入れることが大切である。

(3) 地域の人材を活用した授業づくり

地域で活躍している人々をゲストティーチャーとして迎え、授業への協力を得るとも効果的である。そのために、日ごろから地域の人材の情報を集めたりリスト等を作成しておくことが必要である。また、地域教材の開発への協力を得たり、その資料を授業で提示する際にも協力を得るなど、様々な工夫をすることが大切である。

4 移行措置

- 平成21年度から新しい指導要領の規定によるものとする。
- 授業時数は、現行と同じである。

〔資料1〕内容の改善とポイント解説

学 年	主な内容の改善点	ポイント解説
第1学年 及び 第2学年	<p>[現行] 4-(1)「～, 約束やきまりを守る」</p> <p>[新] (1)「約束やきまりを守り, ～」</p> <p>○4-(1)の前後の内容を入れ替えて, 集団のきまりをしっかり守ることをより強調している。 ○新たに4-(2)「勤労」の内容項目を設けている。</p>	<p>○社会生活上のきまりを守ることをより強調</p> <p>○低学年段階から社会参画への意識を育てることを重視</p>
第3学年 及び 第4学年	<p>[現行] 4-(2)「～, 進んで働く」</p> <p>[新] (2)「～, 進んでみんなのために働く」</p> <p>○1-(1)から(4)の内容項目の表現を調整し, 各学年段階間の内容項目のつながりを一層理解しやすくしている。 ○新たに1-(5)に「個性伸長」の内容項目を設けている。 ○4-(2)に「みんなのために」を加え, 働くことによる社会参画への意識を一層深められるようにしている。</p>	<p>○自己のよさを実現するために意欲的に取り組むことを重視</p> <p>○働くことが集団や社会のためになることを強調</p>
第5学年 及び 第6学年	<p>[現行] 1-(1)「生活を振り返り, ～」</p> <p>[新] (1)「生活習慣の大切さを知り, 自分の生活を見直し, ～」</p> <p>1-(3)「～, 規律ある行動をする」</p> <p>(3)「～, 自律的で責任のある行動をする」</p> <p>○1-(1)「生活習慣の大切さを知り」を加え, 生活習慣にかかわる内容項目であることを明確にしている。 ○1-(3)を「自律的で責任のある行動」と改め, 自立心や自律性及び自己に関する責任感をはぐくむことをより明確にしている。 ○4-(1)から(3)の配列を入れ替え, 「法やきまりを守る態度等」の育成を最初に位置付けている。</p>	<p>○望ましい生活習慣の形成, 生活の自己改善を図ることを重視</p> <p>○自立心や自律性及び自己に対する責任感をはぐくむことを強調</p> <p>○集団のきまりを守ることを一層強調</p>
全学年 共通	<p>○3-(1)「生命尊重」(2)「自然愛, 動植物愛護」(3)「^{けん}敬虔」と配列を入れ替え, 「生命を尊重する心」の育成を最初に位置付けている。</p>	<p>○全学年段階を通して「生命を尊重する心」を重視</p>



〔資料2〕その他の改善とポイント解説

項 目	主な内容の改善点	ポイント解説
道徳の 指導計画	<p>○校長の方針の下に, 道徳教育推進教師を中心に, 全教師が協力して全体計画・年間指導計画を作成するものとしている。</p> <p>○内容項目は, 各学年においてすべて取り上げるものとしている。</p> <p>○各学年を通じて「自立心や自律性」「生命を尊重する心」を育てることに配慮し, 指導内容の重点化を図っている。</p>	<p>○校長の方針の明確化</p> <p>○道徳教育推進教師の役割を明確にし, 協力体制を整備することが大切</p> <p>○道徳教育と他の教育活動との関連付けを図り, 重点化を指導計画に反映させることが大切</p>
道徳の時間 の指導	<p>○道徳教育推進教師を中心とした指導体制を充実することとしている。</p> <p>○道徳の時間に生かす体験活動として, 「集団宿泊活動」を加えている。</p> <p>○児童が感動を覚えるような魅力的な教材として, 「先人の伝記, 自然, 伝統と文化, スポーツ」などの題材を例示している。</p> <p>○自分の考えを表現する機会の充実や情報モラルに関する指導への留意等を求めている。</p>	<p>○道徳教育推進教師を中心とした指導体制の充実</p> <p>○道徳性の育成に資する体験活動の推進</p> <p>○積極的に教材を開発し, その効果的な活用に努めることが大切</p> <p>○言葉を生かした教育の充実</p> <p>○情報モラルに関する指導に配慮することが大切</p>
家庭や 地域社会 との連携	<p>○道徳の時間の授業を公開するなどして, 学校, 家庭, 地域社会の三者連携を図ることとしている。</p>	<p>○家庭や地域社会との共通理解, 三者連携が重要</p>